

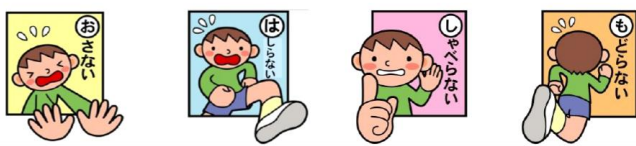
「防災教育テキスト」を活用した防災教育


学 校 名	防府市立右田中学校	実施時間	学級活動
-------	-----------	------	------

1 ねらい

- 授業中に地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるようにする。
- 避難経路の安全を確認しながら、二次避難場所まで整然と避難ができるようにする。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
<p>1 本時のねらいを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="background-color: #fce4ec; padding: 2px;">地震が発生したら ～安全な場所で安全な体勢をとる～</p> <p>◇ 建物の中にいたとき <身を守るために></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な机やテーブルなどの下に隠れましょう。 ・机等がない場合は、物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所で、体勢を低くして揺れがおさまるのを待ちましょう。 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><ひなんするときの4つのやくそく></p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震と津波の避難訓練を行うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災教育テキスト」を活用し、以下の避難行動の基本を伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・放送や教職員の指示に従い、落ち着いて静かに行動すること。 ・地震が発生した場合は、身の安全を確保するために机等丈夫な物の下に潜り、机であれば対角の脚をしっかりと持ち、机が倒れないようにすること。 ・机等の下に潜っている間も、落ちてくる物はないか、壊れる物はないかなど、周りの状況に注意を払うこと。 ・強い揺れが収まって運動場等に避難する際、「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」の約束を守ること。 </div>
<p>2 地震発生時の避難行動を理解する。</p> <p>(1)安全を確保する。</p> <p>(2)避難場所を確認する。</p> <p>(3)避難行動を開始する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放送で地震の発生を連絡する。 ・各所の教職員も生徒に机の下に潜るよう指示する。 ・職員室等にいる教職員は、避難場所等の状況確認及び情報を収集する。 ・避難場所を体育館と決定する。 ・放送で避難指示をする。 ・強い揺れが収まった後、生徒、教職員は、周囲の状況に注意しながら、直ちに体育館に避難させる。 ・生徒を誘導する。 ・各所の教職員は、生徒を先導し、事前に定めている避難経路に従って体育館に避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送で地震の効果音を流す。 ・地震の効果音により不安な声を発する生徒がいる場合は、大きな声で「大丈夫」「心配しないで」等の声をかけ、落ち着かせる。 ・避難指示をするにあたって、以下の4点を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の破損、火災の発生等はないか。 ・運動場までの避難経路に問題はないか。 ・運動場に亀裂や液状化はないか。 ・津波等二次災害の情報はないか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・職員室等にいる教職員は、避難経路の各所に立ち、生徒全員が安全に避難したことを確認した後、自らも避難する。 ・教頭等は、ラジオや携帯サイトなどで情報収集をしながら避難する。 ・落下物に備えて、タオル、ジャージなどを使用して移動時に頭を守りながら移動すること。 (消防職員から事前に指導あり)

<p>(4) 自分の体調やけがの有無等を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を整列させ、点呼を取り、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、校長（教頭）に報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の誘導以外の教職員は、あらかじめ決めておいたポイントに立ち、避難時の安全確保に従事する。
<p>3 津波警報発令時の避難行動を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・教職員全員が、体育館に避難したことを確認した後で津波警報が発令されたことを伝え、生徒を二次避難場所へ誘導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は集合し、二次避難場所への移動後の役割分担を確認する。
<p>(1) 二次避難場所への避難をする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 先見の教職員は、避難経路の状況等を確認し、スマートフォンや携帯電話、ハンドマイク等を使って本隊と連絡を取りながら移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「防災教育テキスト」を活用し、事前に以下の点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 津波の到達までにはかなり時間がかかること。 できるだけ高い場所に避難すること（「早く」よりも「高く」）。 落下物などに備え、頭を守りながら避難をすること。
<p>(2) 自分の体調やけがの有無等を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 二次避難場所に避難後、生徒を整列させ、点呼を取り、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、校長（教頭）に報告する。 二次避難場所に避難が完了するまでの時間を測定し、津波の予想到達時間と照らし合わせ、二次避難場所が適切かどうか確認する。 教頭等は、教育委員会へ生徒、教職員の避難状況等を報告する。 	
<p>4 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導者（消防職員）及び校長による指導講評を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導講評を聴きながら、自分の避難行動について振り返る。